

新二十四の瞳

吉崎 洋司（新島村立式根島中学校）

私はミレニアムの年から電気事業に携わる方々の協力を得て、十数年にわたりエネルギー教育や環境教育推進に関わってきた。微力ながら各教科の教材・教具などのコンテンツ開発に参加し、その成果を発表し、冊子にまとめた。

その最中、2011年3月11日、東北で大地震が起き、大津波が未曾有の被害をもたらした。

いたるところで「想定外」という言葉を耳にした。幾重にも重なった「想定外」の出来事が、これまで積み上げてきたエネルギー・環境教育を推進してきた方々の労苦と組織をも飲み込んでしまった感がある。

2013年、4月の定期異動により伊豆七島の学校に赴任した。この島の教育の特長は保育園・小中学校・高校と連携し合い、島の宝である子供達を一貫した教育手法のもとで育てる点にある。

赴任早々、保育園にご挨拶に行った。この日は12名の園児達が二十四の瞳を輝かせて私を元気づけてくれた。

私はこの瞬間、「この島で新しいエネルギー・環境教育が始められる！」、「この園児達から新しい一貫教育を始めよう！」と密かに誓った。

出前授業の約束を園長先生と打ち合わせ、早々に、電気事業に携わる方々の協力を得て作った教材（おもちゃ）を持参した。

エネルギー・環境教育と声高に言っても園児達は興味を示さない。そこで、私は数多くの教材（おもちゃ）を披露（店開き）し、自由に触らせた（体験させた）。すると、園児達からこんな質問を浴びせさせられた。

- ・風車が回るとなぜ電気がつくの？
- ・太陽があたると音楽がなったよ！なぜ？
- ・線（コード）がないのにおもちゃが前に進むよ、バックするよ。

園児は食い入るように教材（おもちゃ）を観察し、質問するのである。期せずして、ある園児が「これ、うちの家にもある！」と何かに気づいた瞬間に他の園児達も連鎖するように、何かに気づいた。「私たちの身の回りもある！」と、類似のおもちゃや家電に関連づけ始めたのである。

たまたま、園児の保護者も参観していて、その様子を見て、うなずき、苦笑いしていた。この日の出前授業は園児を楽しませるためだけではなく、ねらいと目的が明確であれば「エネルギー・環境教育」を学ぶことができるという手応えを感じた。

後日談で、この日の様子を園児達は夕食の話題にしたそうである。「ぼくはしょうちゅうがくせいのおにいちゃんよりかしこいよ」と自慢げに話したそうである。

私は次の出前授業までに今一度、各教科の教材・教具などのコンテンツを見直し、改良して、園児達に今まで以上にわかりやすい「エネルギー・環境教育」を届けたいと強く思っている。

最近、島内で園児達に会うと「ワクワク先生！」と大声で手を振ってくれる。この12名の園児達の10年後が楽しみでならない。